

2018年度 大学自己点検・評価(経営戦略研究科(専門職課程))自己点検・評価総括用シート1

＜経営戦略研究科(専門職課程)の教育研究目標の進捗状況＞

教育研究目標(タイトル)		評価指標	評価尺度	進捗状況	
目標 1-1	理論と実践の融合を希求した高度専門職業人の育成とその実現に資する効果的な教育研究環境の確保	企業経営戦略コースの募集人員に対する出願者数の割合	A: 115%	2018年度目標値	B
			B: 110%	2018年度自己点検・評価後(2018年度帳票提出時点)	A
目標 1-2	理論と実践の融合を希求した高度専門職業人の育成とその実現に資する効果的な教育研究環境の確保	国際経営コースの募集人員に対する入学者の割合	A: 100%	2018年度目標値	C
			B: 90%	2018年度自己点検・評価後(2018年度帳票提出時点)	D
目標 2	(タイトル)高い職業倫理観と国際的な水準で世界の経済発展に貢献する職業会計人の養成	会計専門職専攻の英語での授業科目及び高度な実践的科目の受講割合(=上記科目の受講者数/在籍者数)	A: 45%	2018年度目標値	C
			B: 35%	2018年度自己点検・評価後(2018年度帳票提出時点)	B
			C: 25%		
			D: 16%		

<2016～2018年度の自己点検・評価の取組み総括>

総括1 <3年間の取組みによって改善したこと、向上したこと>

経営戦略研究科の理念・目的及びそれを達成するためのDP・CPに沿ったカリキュラムの充実と、APも含めた3つのポリシーを踏まえた入試説明会などの入試広報の展開により、入学者が増えた。研究科全体としての入学定員充足率は8割を達成した。

特に課題となっている国際経営コースの入学者確保に向けて、国際連携機構や国連・外交統括センターとも連携を取りながら学部生及び交換留学生を対象にした入試説明会を開催し、新たな受験者層の掘り起こしを行った。今後に期待したい。会計専門職専攻についても、教員自らが説明会に赴き、マンツーマンでアドバイスを行うなどきめ細かな学生募集活動を展開し、一定の成果を得ている。

評価専門委員・所見記入欄:

■総括1について

- ・ 定員充足率向上のため、精力的に取り組んでこられたことが伺えます。(A)
- ・ 専攻ごとのアンバランスはあるものの、3つのポリシーに基づいてアドミッションが展開されて入学者が増えたことは、PDCA サイクルが機能していることの現れと評価できます。(B)
- ・ 入学定員充足率は8割に達したといっても、それは「経営戦略専攻」に引っ張られたもので、「会計専門職専攻」はここ3年間でわずかに改善したもののまだ5割である。更なる改善が強く求められる。(C)
- ・ 目標1-2のD評価との関連ではどうなっていますか。(E)
- ・ 全体として順調に推移していると思います。(G)
- ・ 引き続きPDCA サイクルを機能させることで、更なる伸展につながることを期待します。(H)